

# ふたつのふるさと(海・山の防災交流)事業 中間報告



ふたつのふるさと

岐阜県総合企画部 未来創成局 未来創成課 令和8年3月



# ふたつのふるさと事業 ～概要～

## 事業の目的

人口減少の一因である若者の流出が進む中、将来の関係人口を増やすとともに 流出を防ぐためには、**子どもの頃に他地域を知り、自らの故郷を知る体験は重要**といえる。

このため、県外の小中学生が岐阜県を「もうひとつのふるさと」と感じられるような宿泊・交流・防災体験を県内の小中学生と実施し、**関係人口の創出・拡大**とともに南海トラフ地震などの有事の発生時の**新たな関係構築に繋がる交流**を図る。

## 事業の概要



## 要件

- ◆岐阜県内で、宿泊を伴う対面による交流を実施
- ◆「地域資源を活用した体験活動」+「防災の体験活動」
- ◆上記+オンライン等を活用した交流を2回以上実施
- ◆成果報告について発表



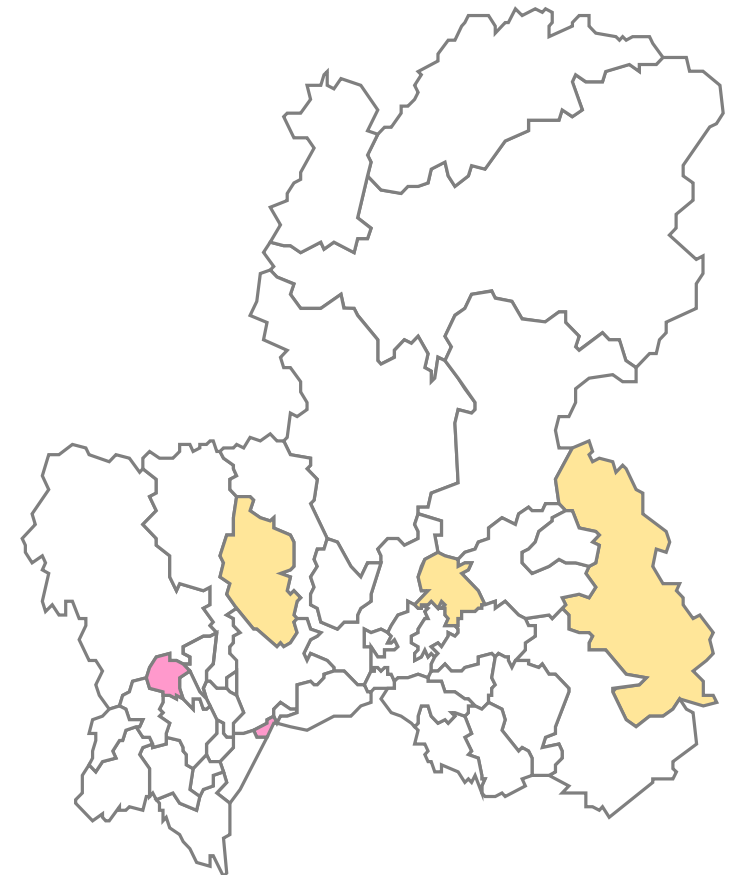


## ふたつのふるさと事業 ～市町村一覧～

### 政策オリンピック

- ・優れた政策を県民等から募集し、県がその活動費を補助
- ・効果が確認されたアイデアや手法については、必要な修正を加え、県の政策として他の地域に展開

R7	笠松町	愛知県岡崎市(中学生)
	池田町	三重県尾鷲市(小学生)
R8	中津川市	愛知県名古屋市(小学生)
	山県市	愛知県南知多町(中学生)
		福井県福井市(小学生)
七宗町	静岡県松崎町(小学生)	



## 事業のねらい

- ・岡崎の子が、笠松町を「もう一つのふるさと」と感じられる関係づくり
- ・防災を、体験を通じて「主体的」に学ぶ機会の創出
- ・南海トラフ巨大地震等を見据えた、地域を越えた人のつながりづくり

## 事業概要

### 【実施日】

令和7年11月22日～23日(1泊2日)

※事前・事後にオンライン交流を実施



### 【実施場所】

笠松競馬場、松波総合病院、笠松中学校、笠松みなと公園 等

【参加者】 23名(笠松中17名、岡崎市立南中6名)

【協力団体】 松波総合病院、笠松競馬場、防災士会 等

## 成果・効果

- ・満足度100点評価：**85%以上**
- ・**全員**が「とても楽しかった」と回答
- ・**85%以上**が防災の学びを実感

→ ミッション型の体験を通じ、防災意識と関係性の双方を形成

## 主な取組内容(体験型・防災プログラムをミッション形式で実施)

### 医療&護身術ミッション

災害発生時を想定し、応急手当や安全確保の方法を実践的に体験



### 防災脱出ミッション

謎解きを通じて、防災知識を活用しながら協力して課題を解決



### 空き校舎活用ミッション

老朽化に伴い使用されていない小学校の校舎で危険箇所を調査

### ヒーリングミッション

馬との触れ合いで心の癒しなどに効果のあるホースセラピーを学ぶ

### 伝統文化交流ミッション

笠松町伝統の踊り「新笠松音頭」で交流

### 自然体験交流ミッション

笠松町の花&岡崎市の花である「桜」を植樹して再会を誓う

## 事業のねらい

- ・子ども同士の交流を通じた友情づくりと、将来につながる関係づくり
- ・海と山の違いを学び合うことによる、防災・減災意識の向上
- ・地域資源を体験することによる、池田町の魅力発信

## 事業概要

【実施日】  
令和7年12月20日～21日(1泊2日)  
※事前・事後にオンライン交流を実施

【実施場所】  
願成寺古墳群、ハリヨ繁殖地、池田温泉 等

【参加者】 15名(池田小10名、尾鷲市立向井小5名)

【協力団体】 赤十字奉仕団、防災士会 等



## 成果・効果

- ・池田温泉・名物食べ比べ: **満足度100%**
- ・相手地域が「どこかの知らないまち」から「友達のいるまち」へと変化  
(支援意思: 募金 86%/購入 71%/ボランティア 57%)

→双方向学習を起点に町単独の研修派遣へ展開

## 主な取組内容

### ハイゼックス炊飯調理実習

災害救護用炊飯ポリ袋を使用した  
カレーライス調理体験



### 避難所宿泊訓練

段ボールベッドを組み立て、  
避難所を想定した宿泊体験



### 歴史文化見学

古墳やハリヨ繁殖地を見学し、  
町の歴史・文化資源について学習

### 池田の名物を食べ比べ

町特産のお茶を使った菓子を  
味わいながら、交流を促進

### 池田温泉でほっと一息

町営温泉施設「池田温泉」に入浴し、  
交流の合間に心身を休める時間

### 「海」地域の防災学習

尾鷲市の児童による発表を通じ、  
海地域の防災の取組を学習



## ふたつのふるさと事業 ～工夫した点・苦勞した点～

### Q.事前交流ではどのようなことを実施したのか

- ・互いの地域(歴史・文化)をテーマにしたクイズを実施
- ・発表やクイズを通じて、相手地域への関心を醸成
- ・チーム分けにカードを活用し、自然な交流が生まれるよう工夫



### Q.庁内でどのような体制で取り組んだのか

- ・地域資源、学校教育、防災など各担当が役割分担し、それぞれの強みを生かした庁内連携体制を構築した

### Q.小学生同士の宿泊に不安はなかったか

- ・職員・引率者を手厚く配置し、リスク管理を徹底した
- ・事前交流により心理的ハードルを下げた
- ・苦勞は大きかったが、得られた効果も大きかった

### Q.「防災」を前面に出しすぎない工夫は何か

- ・遊びやミッション形式を取り入れ、楽しく学べる設計とした
- ・体験の中で、結果として防災に触れる構成とした
- ・「学ばせる」より「一緒にやってみる」を重視



### Q.雨天時の対応はどのように考えていたか

- ・原則「雨天決行」を前提にプログラムを設計(屋外予定の内容は、屋内・代替案を準備)
- ・災害時を想定し、「予定通りにならない経験」も学びと捉えた

### Q.知らない子同士が親密になるきっかけは何だったか

- ・結果として、大きな問題はなく、短時間で打ち解ける様子が見られた
- ・プログラムの面白さと班活動により、自然に打ち解けた
- ・宿泊や入浴など、生活を共にする時間が距離を縮めた



### Q.子どもたちの反応が特に良かった内容は何か

- ・防災脱出ミッションなど、体を動かしながら考える活動
- ・名物の食べ比べや温泉体験など、地域性を感じられる活動
- ・「楽しい中に学びがある」プログラム全般への反応が良好だった



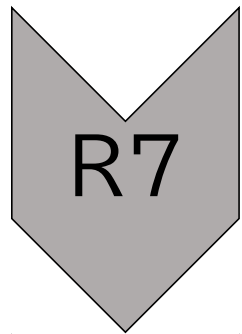
### Q.事後交流ではどのようなことを実施したのか

- ・体験後に振り返りの場を設け、学びの定着を図った
- ・自身の行動目標を書き出すカードと、感謝を伝えるカードを活用



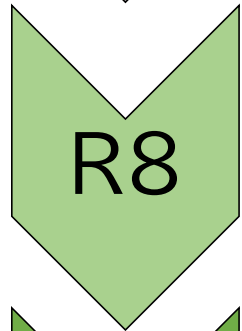
令和7年度事業で実際に活用した資料はこちら  
(企画資料、プログラム例、振り返りシート等)





### 事業募集・事業実施(①)

- ・事業募集(R7・R8実施分を対象)
- ・笠松町、池田町で先行的に事業実施



### 事業実施(②)

- ・中津川市、山県市、七宗町で事業実施
- ・近隣県及び各分野(教育、観光、防災等)への情報共有・調整
- ・横展開の手法や次期施策の方向性検討



### 横展開・次期施策の推進

- ・他自治体への展開(事例集、実施マニュアルの配布等)
- ・次期施策(※今後検討)の推進  
※関係人口創出、防災連携、ふるさと教育等

成果報告会

共有・反映

成果報告会

共有・反映



## ふたつのふるさと事業 ～令和7年度の取組で見えてきたこと～

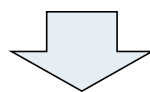
### ■ 子どもたちの変化 ～子どもたちの「防災意識の向上」と「親近感の深まり」～

- ・宿泊体験や防災プログラム等、体験を通じた学びで、**防災を自分ごととして捉える**姿勢に
- ・県外の学校との交流を通じて、**お互いの地域が「知っている場所」「大切な場所」**に

### ■ 地域(市町村)の変化 ～初めて生まれる「つながり(縁)」と発災時の備えに向けて～

- ・これまでつながり(縁)が無かった**県外市町村との新たな関係構築**へ(発災時に備える)
- ・子どもたちに高い評価を得た防災プログラムを、今後、地域内の他の取組にも活用し、更なる防災力の向上へ

▶▶▶ 県として、市町村の「新たなチャレンジ」を支援することで、防災力の高まり、地域魅力の再発見、将来の関係人口増加に向けた動きにつながった



### ■ この「変化」を他の地域へ広げていくために(令和8年度～)

- ・令和8年度は新たに3市町で実施予定。令和7年度の実践で得られたノウハウも活かしながら、内容の充実を図り、子どもたちの「こころが動く」取組を展開していく(県からの事業費支援も継続)
- ・他市町村への横展開として、本事業の目的や取組を広くPRしながら、「最初の一步」を踏み出しやすい県の支援のあり方について検討を進める

# 採択市町村による今年度の取組の詳細

---



ふたつのふるさと

ふたつのふるさと事業

# MISSIONカサマツ～防災×冒険×友情の大作戦！～



# 01

事業のねらい  
期待される効果



物語性を持たせたミッション形式＝生徒が主体的に取り組む

1

## 笠松町ならではの「ふるさと」体験

- ・行政・学校・民間が連携して笠松町ならではの地域資源を活かした機会を創出
- ・県外児童が岐阜県に親しみを持ち“もう一つのふるさと”として心に残る体験
- ・県内児童が自らのふるさとの魅力を再認識して郷土への誇りを育む

2

## 防災を“体験型・主体型”で学ぶこと

- ・防災教育を“義務的学習”から“主体的体験”へ転換
- ・楽しさを入口として防災を継続して学ぶ意識を育み、地域防災力の向上につなげる

3

## 有事に備えた人的ネットワークの構築

- ・学校間の顔の見える関係を起点とした持続的な関係人口基盤の形成
- ・南海トラフ巨大地震等を見据えた広域的人的ネットワークの創出

# 02

## 事業概要



**事業名**

MISSIONカサマツ～防災×冒険×友情の大作戦！～

**実施日**

令和7年11月22日～23日（1泊2日）

事前交流会：令和7年10月24日

事後交流会：令和7年12月19日

**実施場所**

笠松競馬場、松波総合病院、笠松中学校、笠松みなど公園 など

**交流相手**

愛知県岡崎市立南中学校の中学1～2年生

**参加人数**

笠松中学校の生徒 17名 南中学校の生徒 6名 計23名

**協力団体**

松波総合病院、笠松競馬場、羽島郡広域連合、かさまつ防災士会

# 03

## 活動スケジュール



### Day1 11月22日(土)の予定

時間	内容
8:15	岡崎市立南中学校 正門付近集合
8:20	南中学校 出発
9:50	笠松町 到着
10:00	冒険隊任命式
10:15	1_医療&護身術ミッション
12:15	笠松競馬場グルメ(昼食) &場内見学
14:00	2_空き校舎活用ミッション
15:30	3_伝統文化交流ミッション ★踊ろう!新笠松音頭
17:00	ウエルカムパーティ(夕食)
18:30	4_防災脱出ゲーム
20:30	宿泊先ホテル 到着 入浴・明日の準備
22:30	就寝



### Day2 11月23日(日)の予定

時間	内容
7:15	起床
7:45	朝食
8:45	宿泊先ホテル 出発
9:00	5_ヒーリングミッション
11:00	6-1_自然体験交流ミッション ☆ソメイヨシノ(笠松みなと公園)
11:45	6-2_自然体験交流ミッション ☆しだれ桜(笠松中学校)
12:30	お弁当(昼食) TV「マツコの知らない世界」で 紹介されたキッチンカーの特製弁当♪
13:00	冒険隊除隊式
14:00	笠松町 出発
15:30	南中学校 到着&解散



# 04

## 活動内容の紹介(全体)



### 事前交流会

現地研修1か月前 📍オンライン (Zoom)

### ミッション①

医療&護身術ミッション 📍松波総合病院 柔道場

### ミッション②

空き校舎活用ミッション 📍笠松小学校

### ミッション③

伝統文化交流ミッション 📍笠松中学校 アリーナ

### ミッション④

防災脱出ミッション 📍笠松中央交流センター

### ミッション⑤

ヒーリングミッション 📍乗馬倶楽部ホースランド

### ミッション⑥

自然体験交流ミッション 📍笠松みなと公園&笠松中学校

### 事後交流会

現地研修1か月後 📍オンライン (Zoom)

- ・笠松&岡崎クイズ
- ・カードを活用したチーム分け



▲カメラに向かって『頑張るぞ!』



- ▲事前課題「マイミッションカード」「ありがとうカード」を発表して振り返り&今後の目標設定を共有

# 04

## 活動内容の紹介(全体)



事前交流会 | 現地研修1か月前 📍オンライン (Zoom)

ミッション① | 医療&護身術ミッション 📍松波総合病院 柔道場

ミッション② | 空き校舎活用ミッション 📍笠松小学校

ミッション③ | 伝統文化交流ミッション 📍笠松中学校 アリーナ

ミッション④ | 防災脱出ミッション 📍笠松中央交流センター

ミッション⑤ | ヒーリングミッション 📍乗馬倶楽部ホースランド

ミッション⑥ | 自然体験交流ミッション 📍笠松みなと公園&笠松中学校

事後交流会 | 現地研修1か月後 📍オンライン (Zoom)

# 04

## 活動内容の紹介(医療&護身術ミッション)



テーマ「災害が起きた！自分や仲間のために、どう動く？」

### ステップ1 災害による治安悪化を想定

- ・ 災害後の混乱状態を想定
- ・ 自分と仲間の安全確保
- ・ 基本的な護身動作の体験



▶ 危険を察知し、冷静に行動する力

### ステップ2 仲間がけがを負った！

- ・ 骨折時の固定方法や出血時の止血法
- ・ 声かけと役割分担
- ・ チーム対抗 応急手当レース



▶ 応急処置の実践とチームでの協力体制確立

★知識とともに「行動できる力」を習得    ★体を動かすことで自然にコミュニケーション    ★関係機関と協働

# 04

## 活動内容の紹介(防災脱出ミッション)



テーマ「災害が大怪獣となって笠松を襲う！ 謎を解き、ロボットを起動せよ」

### ✓ ストーリー設定

- ・子どもたちは笠松を防衛する特殊部隊
- ・地震・津波・火災を模した“大怪獣”が接近
- ・ロボットを起動し撃退するミッション

### ✓ クリア条件

- ・ロボット起動には複数の謎解きが必要
  - ・個人では解けない構造
- ⇒チーム全員の協力が不可欠

### ✓ 防災知識を活用した仕掛け

- ・防災マルバツクイズなどを通じて正しい防災知識を習得
- ・ラジオ通信体験（初体験の子どもが多い）
- ・災害時の判断力や日頃の備えに関する知識をヒントにクリアを目指す
- ・役割分担と情報共有



★防災知識を“使う”ことで定着

★災害を“自分ごと”として考える意識形成

★性格や得意不得意に関わらず、全員が参加できる設計

★楽しさを通じて主体的な学びを引き出す

# 04

## 活動内容の紹介 (その他)



### 空き校舎活用ミッション

- ・老朽化に伴い使用されていない小学校の校舎で危険箇所を調査



### ヒーリングミッション

- ・馬との触れ合いで心の癒しやストレス軽減効果のあるホースセラピーを学ぶ



### 伝統文化交流ミッション

- ・笠松町伝統の踊り「新笠松音頭」で交流



### 自然体験交流ミッション

- ・笠松町の花&岡崎市の花である「桜」を一緒に植樹して将来の再会を誓う



# 05

## 工夫した点・良かった点



### 謎解き団体による企画運営

#### 目的

- ・「楽しみながら交流する」という事業趣旨の具体化（参加者が主体的に関わることのできるプログラム）
- ・初対面でも自然なコミュニケーションを促進

#### 具体的な工夫点

- ・任命式から除隊式までを一体設計し、学習全体を統括するファシリテーターを配置
- ・小道具を活用し主体的学習を引き出す設計



### 総合的な学習の時間との連動

#### 実施前（探究・企画立案）

- ・他県生徒を迎える目的を共有し、生徒自らが企画立案に参画

#### 当日（協働・実践）

- ・混成チームでのミッション遂行
- ・ウェルカムパーティーで双方向交流



#### 実施後（振り返り・地域還元）

- ・生徒自身による成果報告を通じて学習内容を言語化・再定着
- ・総合学習での学びを地域へ発信

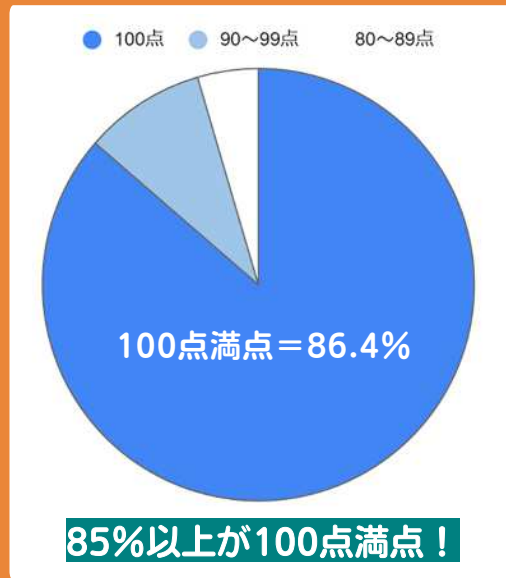


# 06

## 成果と反応(実施後アンケート)



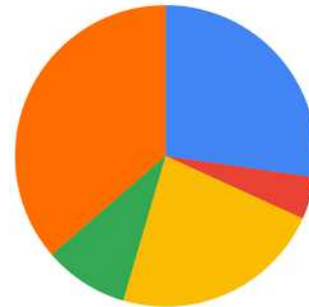
このミッション全体の満足度は  
100点満点で何点でしたか？



県外の子との  
交流について  
どう感じましたか？

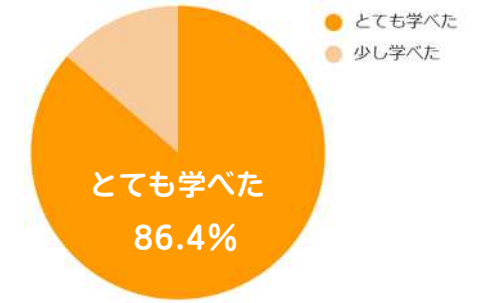
防災に関する  
知識を学ぶことが  
できましたか？

参加前



参加後

**全員が「とても楽しかった」と回答！**



**85%以上が防災の学びを実感！**

# 06

## 成果と反応(参加者の声)



医療ミッションでのレースでは私の班が一番遅くなってしまうが、班の人達と試行錯誤してケガ人を運ぶことができ、笑いがこみ上げる場面もあり、絆を深めながら防災の知識も深めることができた。



もし笠松町で災害が起き、避難所で中学生は大きな力になると思います。なので今回学習したことを生かして、災害がいつ起きても不思議じゃないという認識で、日々をすごしていきたいと思います。



防災脱出ミッションでは、ミッションの内容的に、はやく終わらないといけないのに、終わってほしくない、まだやりたいと思うほど楽しかった。



自分の地域のよさと、防災の大切さを学びました。



除隊式の頃には、はじめの不安もすっかり消え、まだみんなとお別れしたくないという気持ちになっていた。



# 06

## その他の成果



### 地域への効果

#### ✓ 地域資源の再発見・再評価

- ・地元中学生が、自分たちの地域を改めて見つめ直し、普段は意識しない地域の魅力を再発見し地域愛を醸成した
- ・成果発表を地域住民へ公開することで、防災や地域資源の価値が共有された

#### ✓ 防災意識の底上げ

- ・体験型学習による記憶に残る学び
- ・防災意識を一時的な関心で終わらせず、継続的な学習へとつなげる土台を形成
- ・学校という最も身近な場所における有事を想定したシミュレーション

### 自治体間交流の広がり

#### ✓ 県外との新たな関係構築

- ・本事業をきっかけとして県をまたいだ学校間が今後も連携し得る関係づくり
- ・南海トラフ巨大地震など有事の際にも支え合える広域的な人的ネットワークの基盤形成

#### ✓ 関係人口創出

- ・生徒同士が複数回交流することによる“もうひとつのふるさと”への帰属意識の芽生え
- ・他市町村との連携モデル

# 07

## 今後の展望



### 学校起点の継続交流から関係人口拡大へ

#### ■ 学校間の継続的接点づくり

- ・ 交流先自治体との双方向の訪問・受入を検討
- ・ 学校間での定期的なオンライン交流の実施
- ・ 参加者に向け、植樹した桜の成長の様子を年1回発信し、心理的つながりを維持し将来的な再訪の土台を形成

#### ■ 関係人口拡大に向けて

- ・ 交流先の生徒や家族を町主催イベントへ招待し、再訪型の関係人口創出・拡大につなげる



### プログラムの単体展開・パッケージ化

#### ■ 2時間完結型プログラムとして単体展開

- ・ 宿泊型事業は実施に一定の準備とコストを要する
- ・ 「病院での医療&護身術講義」と「防災脱出ゲーム」は個別プログラムとして完結した構成
- ・ 今後も校内行事や町内他校で実施することが可能

#### ■ 再現性のあるモデルとしてパッケージ化

- ・ 地域の防災訓練や体験学習の定番化を検討
- ・ 体験型防災教育パッケージとして他市町村への導入可能性

# 08

## まとめ・メッセージ



今回の事業を通じて、学校を起点に「もう一つのふるさと」と感じていただける関係を築くことができ、地域の新たな財産となりました。ご支援に心より感謝申し上げます。

笠松町は、暮らしやすく魅力のあるまちですが、いわゆるキラコンテンツがあるわけではありません。

しかし、特別な資源がなくても地域の連携そのものが大きな価値を生み出すと実感しました。自治体規模の大小に関わらず、それぞれの地域らしい形で取り組める事業です。

今後も、このつながりを大切に育ててまいります。

引き続き、皆様のご協力をお願い申し上げます。



ふたつのふるさと(海・山の防災交流)事業

「ヤーヤにゃん」と「ちやちやまる」、防災を学ぶ



# 1. 事業の目的・期待される効果



## 魅力発信

温泉施設や銘菓など、池田町の魅力を岐阜県外の児童に体験してもらう



## 防災力強化

海の防災、山の防災をお互いに学ぶことで、児童の防災意識の強化に繋げる



## 相互交流

児童同士の相互交流で友情を育み、将来の関係人口の創出を企図する

## 2. 事業の概要

### 「ヤーヤにゃん」と「ちゃちゃまる」、防災を学ぶ

- 交流実施日 12月20日(土)～12月21日(日)
- 交流校 池田町立池田小学校 6年生児童
- 交流相手校 尾鷲市立向井小学校 5・6年生児童
- 実施場所 願成寺西墳之越古墳群、池田温泉ほか
- 実施内容 古墳など史跡見学、ポリ袋炊飯体験、防災クイズ、池田温泉への入浴など

## 2. 当日活動スケジュール

### 12月20日(土)

- 12:00 対面式
- 13:25 池田町の歴史文化を学ぼう！  
古墳、ハリヨ池などの史跡見学
- 14:30 炊飯調理実習  
ハイゼックスを用いた炊飯体験
- 17:45 池田温泉でほっと一息
- 19:00 交流レクリエーション①  
「池田の名物を食べ比べ！」
- 20:00 避難所宿泊訓練

### 12月21日(日)

- 7:00 池田山から日の出を見よう！
- 7:30 みんなで手作り朝食
- 9:30 防災・減災教室  
防災クイズ、カルタ、ビンゴで学習
- 11:00 交流レクリエーション②  
「ドッジビーで仲良くなろう！」
- 11:50 池田温泉の魅力を知ろう！  
池田高校演劇部の公演を観劇
- 12:45 振り返り・終了式

### 3. 当日の活動模様

#### 対面式



名刺交換ゲームでアイスブレイクを行いました

#### 池田町の歴史文化を学ぼう！



尾鷲の子には馴染みのない古墳や、県天然記念物のハリヨ繁殖地を見学しました

### 3. 当日の活動模様

#### ハイゼックス炊飯調理実習

※災害救護用炊飯ポリ袋



赤十字奉仕団の指導のもと、ハイゼックスを使ってご飯を炊き、カレーを食べました

#### 池田温泉でほっと一息



町営の温泉施設の池田温泉で、1日の疲れを癒しました

### 3. 当日の活動模様

池田の名物を食べ比べ！



池田町の名物であるお茶を使ったお菓子を  
食べながら交流を深めました

避難所宿泊訓練



防災士の進行で避難所を想定した段ボール  
ベッドの組み立てや防災学習を行いました

### 3. 当日の活動模様

#### 尾鷲市の防災について



向井小の児童が、尾鷲市で行っている防災について発表しました

#### 防災・減災教室



池田小学校6年生の全児童と一緒に、クイズやビンゴ大会で楽しみました

### 3. 当日の活動模様

池田温泉の魅力を知ろう！



池田高校演劇部が企画した、池田温泉をテーマにした公演を観劇しました

終了式



対面式と比べてみんなの表情が明るくなり、楽しい交流事業になりました

## 4. 工夫した点



### 町内の防災関連団体との連携

日本赤十字奉仕団岐阜県支部や、防災士連絡協議会へ防災に関わる指導を依頼



### 「ちやちやまる」を随所に使用したプログラム構成

マスコットキャラクターを興味・関心のフックに

池田町への親しみを持ってもらおう ▶ **関係人口の創出**



### 双方向の防災学習

両自治体の児童がお互いの防災を学び合い、興味を持つ

池田町の児童も尾鷲市へ派遣(町独自事業・次頁より)

## 「ふたつのふるさと」尾鷲市研修派遣事業

### ※町単独事業として実施

#### ●交流実施日

2月21日(土)～2月22日(日)

#### ●参加児童・生徒

12月交流に参加した児童6名を含む町内の小中学生9名

#### ●実施内容

防災担当課および豪雨災害経験者による防災講話、県立熊野古道センターなど市内施設見学、尾鷲ヒノキを使用した箸作りワークショップなど

# 当日の様子

## 防災講話



1日目は尾鷲市防災危機管理課、2日目は尾鷲市前教育長よりお話いただきました

## 箸作りワークショップ



名産の尾鷲ヒノキを使用した箸作り体験を行いました

# 当日の様子

## 施設見学



県立熊野古道センターにて、尾鷲というまちの特色について学びました

## 向井小児童との再会



向井小の児童も途中合流し、再会の喜びを分かち合いました！

## 5. 交流の成果(アンケート・感想文より)

### 1. 池田町の魅力の発信

尾鷲にはない古墳など、池田町の魅力が心に残る思い出に

楽しかったプログラム

▶ 「池田温泉」「名物食べ比べ」とともに**100%**!

### 2. 児童の防災意識の発揚

お互いのまちを助ける意識

学んだ防災知識を活かす意欲

もし、将来お互いのまちに災害が起こったら、あなたはどのようにしますか？

- ・募金で復興に協力したい(85.7%)
- ・相手のまちのものを買って応援したい(71.4%)
- ・ボランティアで現地に手伝いに行きたい(57.1%)

### 3. 「ふたつめのふるさと」意識の芽生え

「どこかの知らないまち」から「**友達のいるまち**」へ

相手のまちに災害が起こったら…**力になりたい!**

## 5. 今後の展望



### 自治体間交流の継続

- ・尾鷲市研修派遣事業 2026年度も継続して実施予定
- ・小中学校の防災教育交流や合同避難訓練の検討
- ・両自治体において緊急時協力体制の構築



### プログラムをリーダー研修へリビルド

- ・町内児童生徒対象の防災キャンプへのプログラム活用
- ・災害を想定した避難所宿泊を本格化
- ・他自治体にも導入可能なモデルケースとしての運用

## 6. おわりに

この「ふたつのふるさと」事業への採択をきっかけとして、両自治体の児童がお互いのまちを第二のふるさとと感じ、また自分たちのふるさとの良さを改めて考えることのできる良い機会になったと感じております。

また、自治体職員としても、これまで関わりのなかった池田町と尾鷲市が、連携するきっかけとなる機会を与えていただきました。多分なご支援に感謝いたします。

今回の事業を通して得た繋がりやの芽を、いかにして多方面に広げていくかを考えながら、今後も事業を進めていきたいと思っております。

この度は貴重な機会をありがとうございました。

